第36回児童生徒読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

■小学校5年生の部　最優秀賞

「クロ」からもらった優しさ

弟子屈小学校　山崎　美玖さん

北海道札幌市のばんけい小学校。五年生の亜矢子ちゃん、恵ちゃん、亜矢子ちゃんの弟の三年生、祐人君がダンボール箱に入った二匹の捨て犬を見つけました。その犬を学校で飼いたいと持っていったことが、この物語の始まりです。

私は、「きっとこの犬は小学校で飼ってもらえるなぁ。」と思いました。だけど、学校で犬を飼うのは思っていたよりむずかしいことでした。休み時間に遊ぶのをがまんして、めんどうをみなければいけないし、夏休みや冬休み、学校が休みの日も、お世話をしなくては、いけないからです。ばんけい小学校のみんなは、毎日毎日お世話をして、とてもえらいと思いました。そして、もう一つえらいと思ったことがあります。犬をひきとってくれる家がなくて、動物管理センターにひきとられるかもしれなかった犬を、学校で飼ってほしいと亜矢子ちゃん達が校長先生にお願いにいったからです。私だったら動物管理センターに連れていかれる小犬がかわいそうと心の中では泣きたいほど思っていても、校長室に行って話をする勇気はないと思います。それに、この学校の校長先生もとてもステキな先生だと思いました。色々な問題があったのに子供達の気持ちと動物の命を一番に考えて飼うことを許してくれたからです。

そして、小犬は学校犬になりました。児童会で小犬を飼育するグループも決め、全員でかわいがってあげました。いつの間にか、みんなの間で名前が「クロ」になっていました。だれが名前をつけたか分からずにいたけど、真っ黒でかわいい小犬だったから、クロになったんだと思いました。だから、クロは意味があって、「いい名前だなぁ。」と思いました。

次の年の春、クロにすごく優しかった亜矢子ちゃん、恵ちゃんが卒業してしまいました。でも、クロのお世話をしてくれる、上級生や、下級生、先生がいるので、クロは毎日「優しくしてくれる人がいるからすごく、恵まれているなぁ。」と思いました。

それからクロは、八才、九才と、どんどん年をとっていってやがて十才になりました。年をとっていくうちに、クロは、重い病気にかかってしまって、私は「クロ、大丈夫かなぁ?」と心配でした。でも、どんどん病気が重くなっていき、病院に行って、調べてみると、もう、病気は治らなくなっていました。私がもし、クロだったら、「みんなとずっといっしょにいたい。学校からはなれたくない。いなくなりたくない。」と思うと思います。

だからクロは、私の気持ちと同じに子供達がいる学校のそばの林に行って、息をひきとったんだと思います。

クロは、私が生まれた年に亡くなってしまったので、もし生きていれば、クロに会えたかもしれないということを考えると、とても残念です。

私は、二年、三年生の時にも犬の本を読んで読書感想文を書きました。三さつの本を読んで感じたことは、犬は本当にじゅんすいで私達に素直で優しい気持ちを分けてくれるということです。クロといっしょに過ごしたばんけい小学校のみんなは、とてもすてきな経験ができたと思います。私もクロからたくさんの勇気と優しさをもらったので、周りのみんなにも、いつも優しくしてあげたいです。

今、ばんけい小学校のげんかんには、クロの石像が立っています。札幌に行く機会があったら、ばんけい小学校のクロに、会いに行ってみたいと思います。

〈寸評〉感想文の始まりに、「きっとこの犬は小学校で飼ってもらえるなぁ。」とありました。山崎さんが想像力豊かに、本を読んでいる様子がうかびます。また、自分がクロだったら…ということが、素直な気持ちとして書かれていると思います。勇気と優しさをもらえる本に出会えて、本当によかったですね。

■小学校6年生の部　最優秀賞

友達、家族とのかかわりを考えて

弟子屈小学校　船坂　唯さん

私は、家族について深く考えた事がありません。友達については、グループになってしまう問題で最初は、「なんでグループになるんだろう?。」と思っていたんだけど一度話をすると、「別にグループになってもいいんじゃないか。」と思うようになってきました。

もし、全員と仲良くしようと思ったら今までの経験からするとすごく大変な気がします。

私のクラスの女子の人数は、9人だけど、それでも大変でした。「誰がが悪口を言った。」とか、「にらまれた。」とかそんな事ばかりでした。

もちろん、全員と仲良くしていきたいと思いますが、「そんなうまくいくようなものじゃない。」と私は思います。

このような、友達との関係を『ハッピーノート』では、語っているのです。

その他にも、家族との関係なども語っています。

私がこのハッピーノートを読んだ理由は、主人公の聡子が6年生で私と同じ学年だったからです。聡子と同じ気持ちになれたり、同じ体験があるかもしれないと思い、この本を読みました。

この本のあらすじは、聡子がじゅくにかよい始める所から始まります。じゅくでは、好きな男の子に近づこうとがんばります。でもじゅくでは、友達ができず、初めてできた友達ともケンカをしてしまいます。

学校では、聡子、のり子、世津、この3人が仲良しでした。そんな時、世津が急に転校してしまいます。のり子がきらいだったからです。

その後、のり子は世津が自分の事をきらいと知って、聡子とケンカをします。聡子も自分のことをきらいだと思ったからです。たくさんケンカをして二人はまた友達にもどっていくのです。

次に家族についてのあらすじです。

聡子は、お父さんもお母さんも「私の事なんて何にも知らない。」と思っていましたが、お父さんはじゅくに行って聡子は、友達とうまくやっていけるかと先生に聞いていたのです。

私はこの事を知って、「聡子の考えすぎなんじゃないか。」と感じました。お父さんはどんな気持ちだったかわからないけど、きっと、聡子が心配でしかたなかったのではないでしょうか。

私も「家族を大切にしよう。」とあらためて感じました。でも、どういう事が大切にする事かわかりません。

だから、今は、ふだん通り生活しながら、これからも家族のことを考えていこうと思います。その中で大切にする事が「こういう事か。」と学んでいけたらいいと思いました。

私は、今、仲の良い友達がいます。でもケンカをする事もあります。一人一人ちがう心を持っているので、考えがちがうことがあっても当然だと思います。

でも私は、人の心を考えながら生きていきたいです。

人を大切にするというあたり前でむずかしい事を出来るようになりたいです。

私はまだ12才なのでこれから色々な経験をして、誠実な人間になりたいと感じました。

〈寸評〉物語の主人公、六年生の聡子と、自分の生活を照らしあわせながら読み、書かれた感想文です。十二才のこの時期、「家族」について、「友達」について悩み考えることはたくさんあるようです。この本を通して、「人の心を考えながら生きていきたい。」といった決意を語った唯さん。「誠実な人間」を目指して、これからも頑張って成長してくださいね。

そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。
※児童の学年は、コンクールが行われた平成22年度当時のものです。